

ルカ福音書の8章1節から9章50節

ルカ福音書の8章1節から9章50節まで、すなわち3章から9章までの段落の中で、この2つの平行関係について検討してみました。冒頭の部分が似ている、つまり始まり方が似ているという点に着目しています。冒頭部分でイエスが「権威を与えて、福音を宣べ伝えなさい」とおっしゃる箇所です。

8章と9章の冒頭では、6章でも出てくるように「使徒」という名称が与えられていますが、ここではその呼称のみで表現されています。しかし「使徒」とは、神の国の福音を宣べ伝え、悪霊を追い出し、病を癒す者であると言えるでしょう。8章と9章の冒頭は、そのような役割へと続いている箇所です。

続く箇所では、一方が「持ち物を持たずに従う」ことに関する場面であり、「パンを持つな、自分を捨てて従いなさい」という導入へとつながっています。ここを4つの部分に分けて考えています。8章の方では「聞き従う」という段落と、被造物・悪霊・権威に関わる節など、敵との戦いが描かれる2つの区分があります。

9章の方も同様に、パンを得る場面、復活の栄光の場面、そして悪霊を追い出す2つの段落など、こちらも2つのまとまりがあります。1と2という段落の分け方にも注目しています。

また、いくつかのポイントで物語が繋がっていることを指摘できます。例えば、8章と9章は時間的にも繋がっており、イエスが帰ってこられたり、山に登って神の姿が示された後に下山するなど、一連の出来事として続いていることが見られます。

この2つの段落の組み合わせを見ると、預言者エリヤや昔の預言者の一人が復活したという表現が両方に出てくるなど、共通点が多く見られます。この共通点によって、1つの段落ともう1つの段落が対応していることがわかります。

また、汚れた霊、悪霊に関する記述や、ペテロ・ヨハネ・ヤコブという特定の弟子たちが揃って登場する点も興味深いところです。12年間長血を患った女性が衣に触れて癒される場面と、復活の栄光が示される際にイエスの衣がまばゆく輝く描写も対応していると考えられます。

さらに、全財産を使い果たしても癒されなかった女性がイエスに触れて癒される場面と、「全ての財産を捨てて従う」ことが要求される話は対をなしているようです。また、「誰にも言うな」という禁令が両方の場面に存在し、並行性が感じられます。

娘が癒される話と、息子が悪霊から解放される話（娘と息子）といった対応もあり、ペテロが「先生、神です」と告白し、またヨハネが「先生、こうしました」と報告する場面など、弟子たちの反応も並行しているように見えます。悪霊が「いと高き神の子」と宣言することと、ペテロが「神のキリストです」と宣言し、イエスがペテロを叱る場面も興味深い並行関係です。

これらの多くの並行関係を踏まえると、8章と9章の4つの部分を対にして考えてよいのではないかと思います。8章は「言葉を信じ、聞く」ことがテーマで、9章は「復活する預言者、神を目の当たりにする」ことがテーマとして浮かび上がるとも言えます。3章から9章50節までの全体構造の中で、この8章と9章の組み合わせがどのような梯子や架け橋の役割を果たしているかを考えると、より深い理解につながるでしょう。